

赤こんりポート

東恵子リポーター



母なる琵琶湖に感謝の法要

残暑が続いた気候が一変し、雨上がりの肌寒い朝となった10月17日、長命寺港近くの近江八幡漁業協同組合前広場では「漁業まつり」が厳かに執り行われました。

琵琶湖の恵みに感謝し、供養する採燈師・田中智峯さんによる護摩炊き法要には約50人が参列。奥井敦史さんが代表理事組合長となって5つの地区の組合がひとつになって行う初めてのまつりでした。子どもたちによるニゴロブナの稚魚放流もあり、「大きく育ててね」と願いを込めたフナは、元気に琵琶湖を泳いでいきました。

赤こんりポート

今井良治リポーター

「おたがいさま」のまち支える
55人と8団体を讃える

令和3年度近江八幡市社会福祉功労者表彰式が市と市社会福祉協議会の共催により11月1日、市文化会館で開催されました。受賞者は市長表彰、市社協会長表彰など合わせて55人と8団体。例年、地域福祉推進に貢献した人々を讃え、活動発表や講演などを通じ福祉への思いや願いを多くの人に伝える「社会福祉大会」として開催されていますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年に続き、表彰式のみで開催となりました。物故者への黙とうに続き、小西理市長が「お互いさまの心でつながるまちの礎は皆様のご尽力のたまもの。コロナ禍で社会的弱者に一層負担がかかる中、福祉の最前線に長年携わる皆さんの経験やノウハウをさらなる福祉向上に生かしてください」とあいさつ。安土学区で長年にわたり民生委員児童委員を務める安田利行さんは「受賞を新たな出発点として、初心に戻り、地域福祉発展に尽くしたい」と受賞者を代表し謝辞を述べました。



赤こんりポート

松村美沙枝リポーター

“いのち”を伝える特別授業
高校1年生280人が受講

11月8日～12日の間、県立八幡高校の家庭科を学ぶ1年生280人を対象に、市内の子育て支援団体「HugBaby近江八幡」さんを講師に迎え、ママと赤ちゃんによる特別授業が行われました。少子化のため赤ちゃんに関わる機会が減り、また「子育ては大変」などマイナスイメージが先行している昨今、赤ちゃんのかわいさ、生命の大切さに触れることで、地域の子育てを支えられる社会の一員になってほしいという目的で開催されています。生徒たちは初めて体験する「ママの困難」に驚いたり、赤ちゃんとの触れ合いに先生には見せたことのない笑顔を見せたりと、机上では得難い貴重な学びの場となりました。

11月11日～15日

「おやじ」たちの力作 一堂に
第15回近江八幡おやじ連作品展

市内在住の定年退職者らでつくる「近江八幡おやじ連」のメンバーが趣味で手がけた絵画、陶芸、書、写真などの作品を展示する作品展が市文化会館で開催されました。今年は平成18年の結成から15周年を迎え、展示数は176点と過去最高に。15年間の歩みを振り返る巨大なパネルも展示され、訪れた人たちは、おやじたちの力作に見入っていました。

11月14日

4つの武将隊が勇壮に武者行列
第37回あづち信長まつり

織田信長が築いた安土城の城下町を、戦国武将などに扮して練り歩く「第37回あづち信長まつり」が行われました。織田信長、羽柴秀吉、佐々木六角、徳川家康がそれぞれ率いる武将隊が、安土城跡や奥石神社など4か所に分かれ、「エイエイオー」と勝ちどきをあげて出陣。手作りの甲冑や侍女の衣装などに身を包み、安土・老蘇地域を勇壮に練り歩きました。沿道に集まった人たちは、手を振ったり写真を撮ったりしながら楽しんでいました。

11月13日

どんなひみつが見つかった？
親子で探る体験ツアー「かいものと〇〇のひみつ」

市消費生活センターが、親子で「消費者」として、生産者のこだわりや思いを取材・体験して買い物とのつながりを考えるツアー「かいものと〇〇のひみつ」を市内6か所の生産者や店舗を会場に開催しました。参加者は「びわこ」「たべもの」「よし」の3コースに分かれ取材した後、どんなひみつを見つけたか、班ごとにまとめ、発表しました。最後に、江南仁一郎副市長が「SDGs子ども特派員任命書」を一人ひとりに授与。今後、子どもたちは、今日の体験を小学校や家庭、地域で発信していきます。

11月7日

事業者や市民がこだわりの逸品を販売
市民マルシェを開催

市では、新型コロナウイルス感染症の影響により、出店機会や営業機会が減少した市内の飲食店や小売業者、市民の皆さんを応援するため、運動公園体育館前の広場で市民マルシェを開催しました。

湖魚の佃煮や和菓子、米粉を使ったスイーツなどの飲食店や、ヨシ製品や犬の服、手作りの小物などを販売する雑貨店など14の店舗が出店。各店舗のブースには、多くの家族連れらが訪れ、にぎわいました。

11月2日

幻の名城を展示し27年
安土城天主 信長の館が
入館200万人達成

安土城天主 信長の館の入館者が、200万人に到達し、修学旅行で訪れた米原市立伊吹小6年の児童20人に入館認定証と記念品が贈られました。

同館では、安土城の天主にあたる5・6階部分を原寸大で復元されたものを展示。平成4年のスペイン・セビリア万博でも展示され、終了後に旧安土町が譲り受け、移築しました。

この日は午前11時過ぎに児童らが訪れ、スタッフが拍手で出迎えると、200万人に到達したことを証する入館認定証と記念品が贈呈されました。